

調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

平成 16 年の我が国の漁業・養殖業の生産量は 577 万 5,474 t で、前年に比べ 30 万 7,673 t (5.1 %) 減少した。

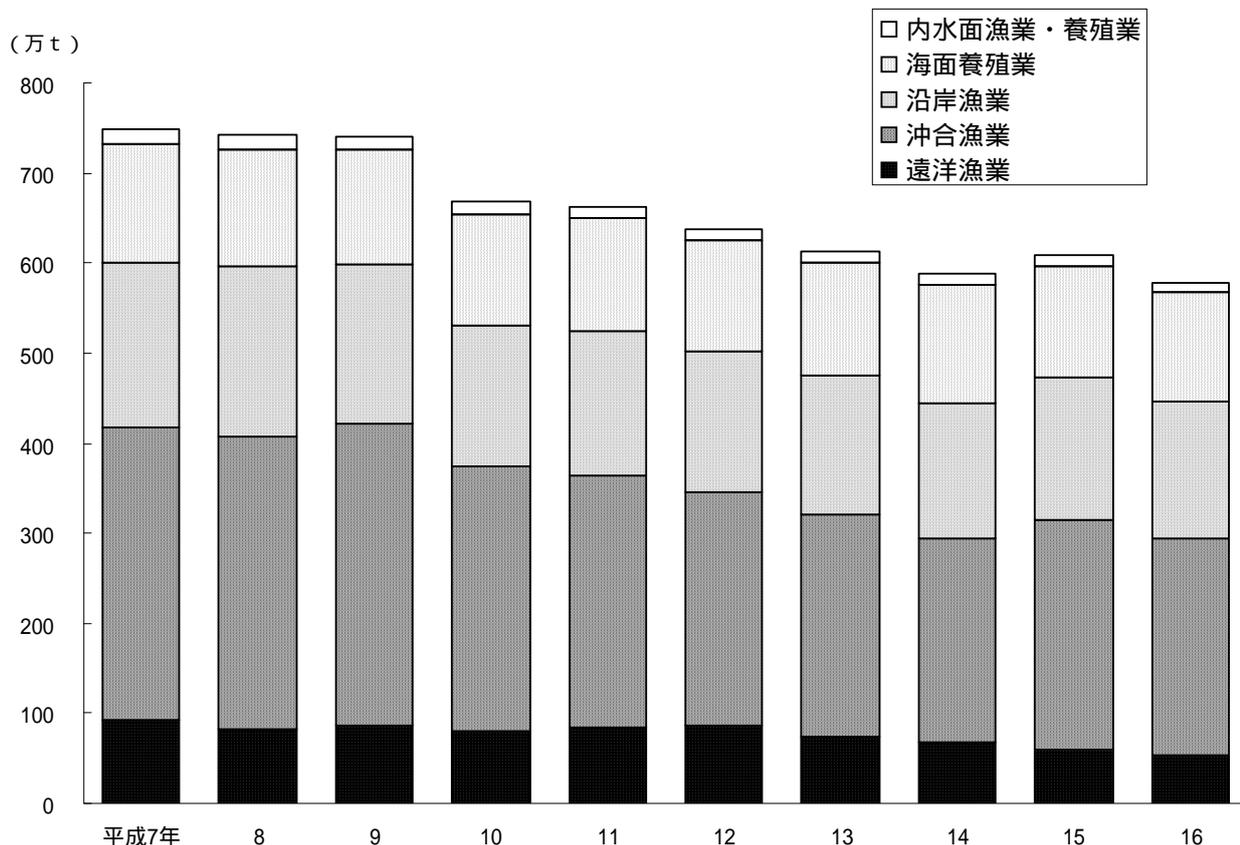
このうち、海面漁業の漁獲量は 445 万 5,077 t で、前年に比べ 26 万 6,897 t (5.7 %) 減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は 53 万 5,433 t で、前年に比べ 6 万 6,536 t (11.1 %) 減少、沖合漁業は 240 万 5,958 t で、前年に比べ 13 万 7,443 t (5.4 %) 減少、沿岸漁業は 151 万 3,685 t で、前年に比べ 6 万 2,919 t (4.0 %) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は 121 万 4,986 t で、前年に比べ 3 万 6,347 t (2.9 %) 減少した。

内水面漁業・養殖業の生産量は 10 万 5,411 t で、前年に比べ 4,429 t (4.0 %) 減少した。

図 1 漁業・養殖業生産量の推移



(1) 海面漁業

海面漁業の漁獲量は 445 万 5,077 t で、前年に比べ 26 万 6,897 t (5.7%) 減少した。

ア 部門別漁獲量

(ア) 遠洋漁業

漁獲量は 53 万 5,433 t で、前年に比べ 6 万 6,536 t (11.1%) 減少した。

これは、大中型遠洋かつお・まぐろ 1 そうまき網が増加したものの、遠洋底びき網及び遠洋かつお一本釣等が減少したためである。

(イ) 沖合漁業

漁獲量は 240 万 5,958 t で、前年に比べ 13 万 7,443 t (5.4%) 減少した。

これは、さんま棒受網、大中型その他の 1 そうまき網、小型底びき網縦びきその他及び中・小型 1 そうまき巾着網等が減少したためである。

(ウ) 沿岸漁業

漁獲量は 151 万 3,685 t で、前年に比べ 6 万 2,919 t (4.0%) 減少した。

これは、さけ定置網及びひき回し船びき網等が減少したためである。

図 2 海面漁業部門別主要漁業種類別漁獲量

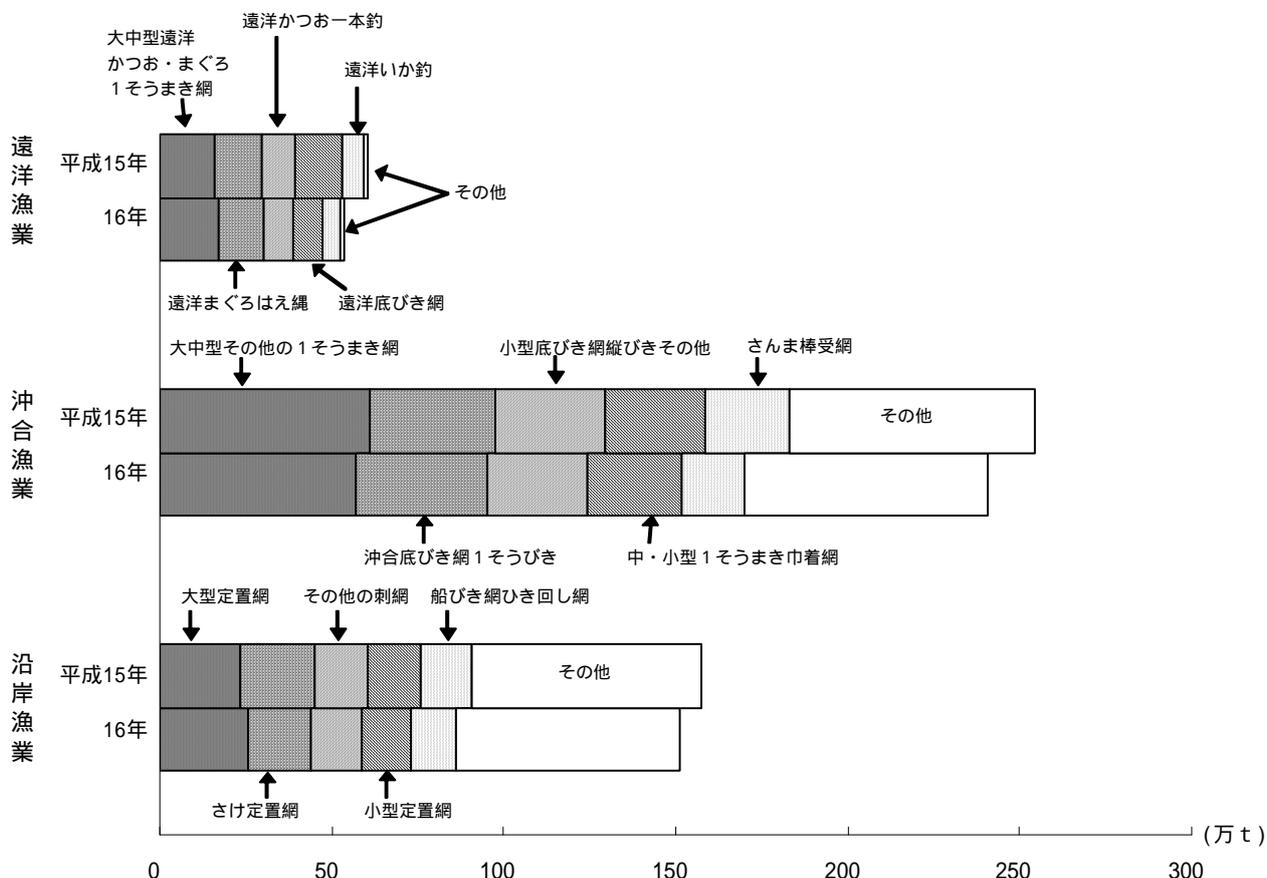


図3 海面漁業部門別漁獲量の推移

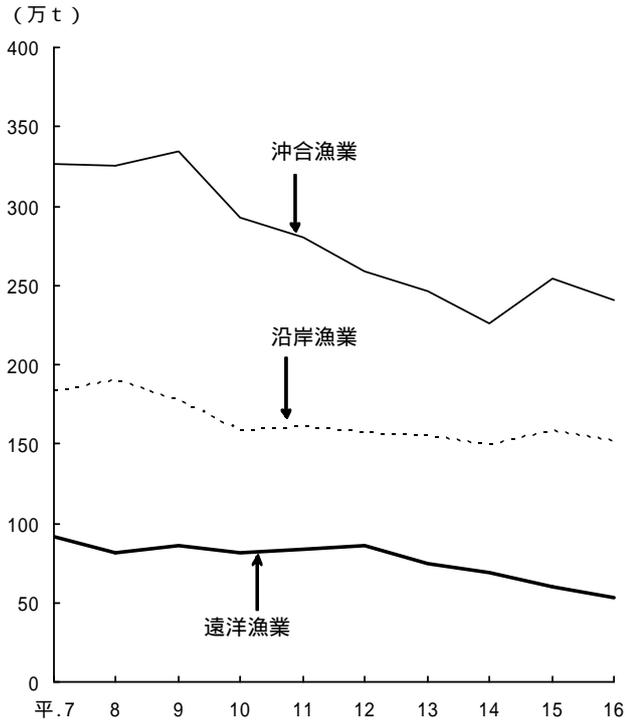


図4 遠洋漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

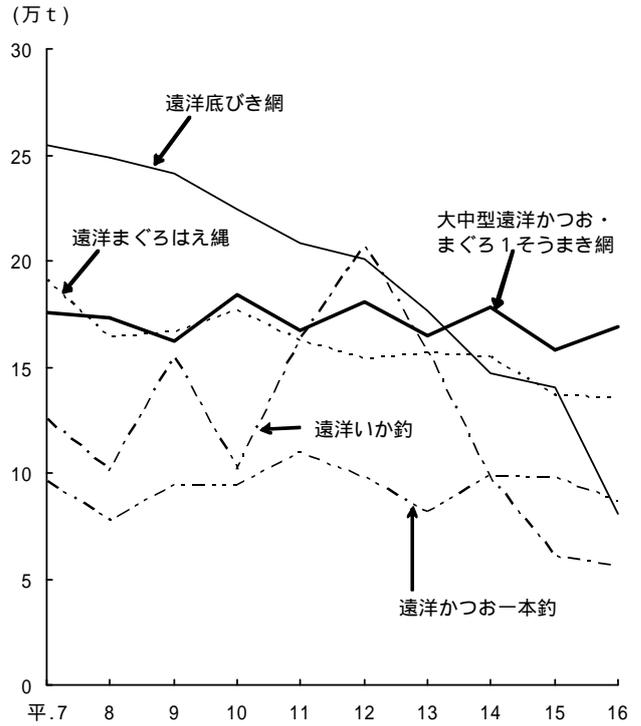


図5 沖合漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

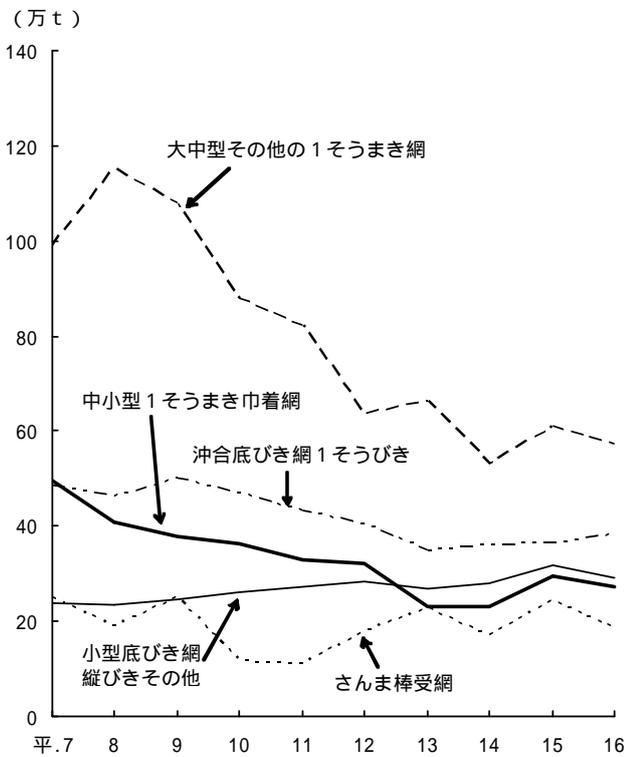
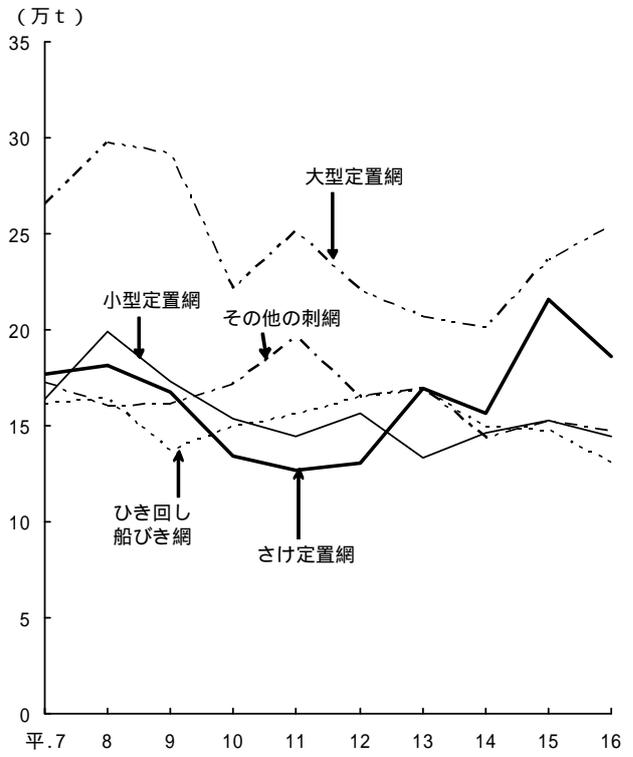


図6 沿岸漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

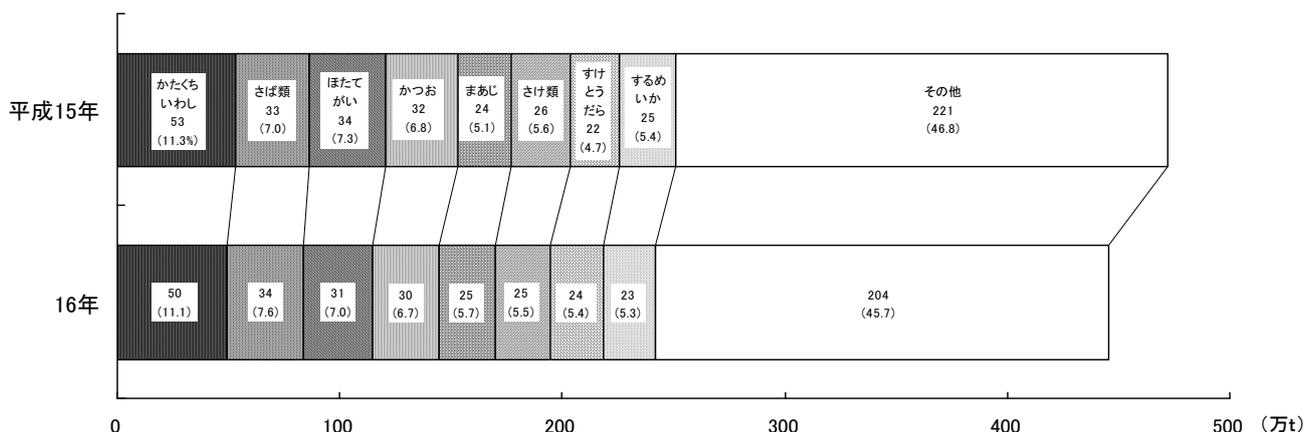


イ 主要魚種別漁獲量

漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、さば類、まあじ、すけとうだらであり、減少した主な魚種はかたくちいわし、ほたてがい、かつお、さけ類、するめいかであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、かたくちいわしが11.1%、さば類が7.6%、ほたてがいが7.0%、かつおが6.7%、まあじが5.7%、さけ類が5.5%、すけとうだらが5.4%、するめいかは5.3%となった。

図7 海面漁業主要魚種別漁獲量



(ア) かたくちいわし

漁獲量は49万5,795 tで、前年に比べ3万9,124 t (7.3%) 減少した。

これは、中・小型2そうまき巾着網等による漁獲量が増加したものの、大中型その他の1そうまき網、その他の中・小型まき網等による漁獲量が減少したためである。

(イ) さば類

漁獲量は33万8,098 tで、前年に比べ8,825 t (2.7%) 増加した。

これは、中・小型1そうまき巾着網等による漁獲量が減少したものの、大型定置網、大中型その他の1そうまき網等による漁獲量が増加したためである。

(ウ) ほたてがい

漁獲量は31万3,800 tで、前年に比べ3万350 t (8.8%) 減少した。

これは、気象の影響等により、漁獲量の大部分を占める北海道において、漁獲量が減少したためである。

(エ) かつお

漁獲量は29万6,591 tで、前年に比べ2万5,865 t (8.0%) 減少した。

これは、近海かつお・まぐろまき網、近海かつお一本釣等による漁獲量が減少したためである。

(オ) まあじ

漁獲量は25万4,287 tで、前年に比べ1万2,367 t (5.1%) 増加した。

これは、大中型その他の1そうまき網等による漁獲量が減少したものの、中・小型1そうまき巾着網、大型定置網等による漁獲量が増加したためである。

(カ) さけ類

漁獲量は24万5,262 tで、前年に比べ1万8,857 t (7.1%) 減少した。
これは、さけ定置網等による漁獲量が減少したためである。

(キ) すけとうだら

漁獲量は23万9,372 tで、前年に比べて1万9,720 t (9.0%) 増加した。
これは、沖合底びき網2そうびき、その他の刺網等による漁獲量が増加したためである。

(ク) するめいか

漁獲量は23万4,603 tで、前年に比べ1万9,237 t (7.6%) 減少した。
これは、大型定置網、近海いか釣等による漁獲量が減少したためである。

図8 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移(上位1位~4位)

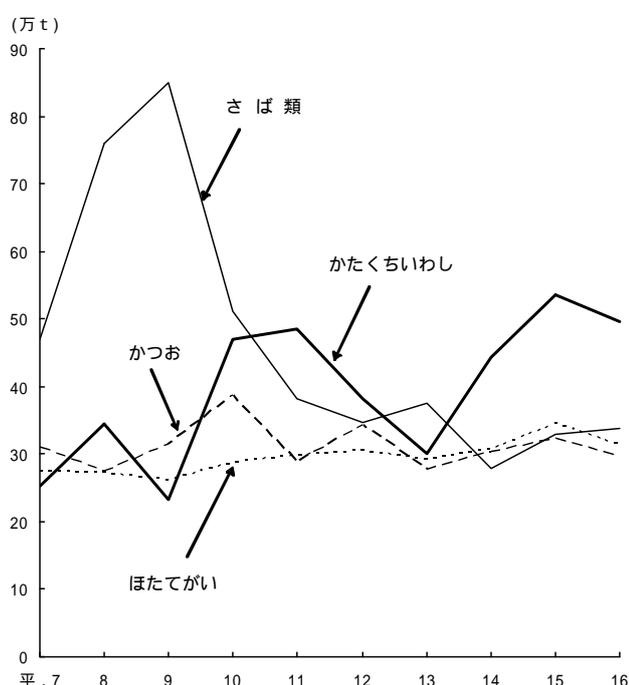
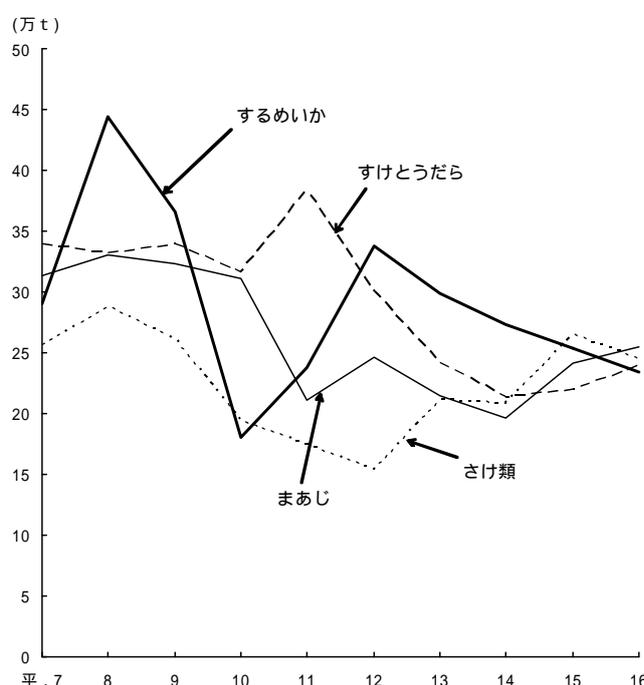


図9 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移(上位5位~8位)



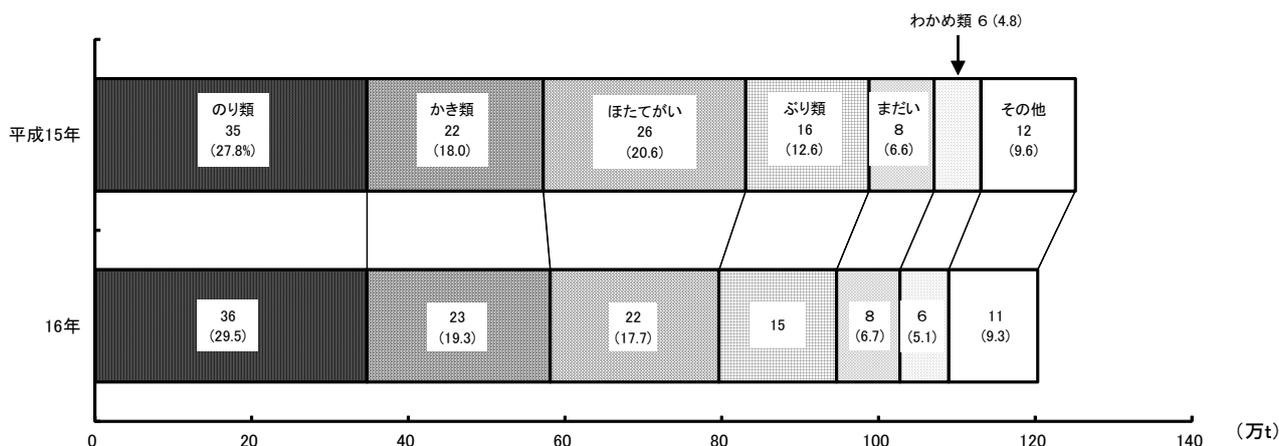
(2) 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は121万4,986 tで、前年に比べ3万6,347 t (2.9%) 減少した。

収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、のり類、かき類(殻付き)、わかめ類であり、減少した主な魚種は、ほたてがい、ぶり類、まだいであった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類29.5%、かき類(殻付き)19.3%、ほたてがい17.7%、ぶり類12.4%、まだい6.7%、わかめ類5.1%となった。

図 10 海面養殖業魚種別収穫量



ア 魚類

収穫量は26万2,280 tで、前年に比べ1万1,637 t (4.2%)減少した。

(ア) ぶり類

収穫量は15万68 tで、前年に比べ7,500 t (4.8%)減少した。

これは、鹿児島県等で増加したものの、宮崎県、高知県、愛媛県等で減少したためである。

(イ) まだい

収穫量は8万959 tで、前年に比べ2,043 t (2.5%)減少した。

これは、熊本県、和歌山県等で増加したものの、三重県、愛媛県等で減少したためである。

(ウ) ぎんざけ

収穫量は9,607 tで、前年に比べ399 t (4.3%)増加した。

これは、宮城県で増加したためである。

イ 貝類

収穫量は45万1,223 tで、前年に比べ3万3,998 t (7.0%)減少した。

(ア) ほたてがい

収穫量は21万5,203 tで、前年に比べ4万3,136 t (16.7%)減少した。

これは、青森県で増加したものの、気象の影響等により、北海道の収穫量が大きく減少したためである。

(イ) かき類(殻付き)

収穫量は23万4,151 tで、前年に比べ9,290 t (4.1%)増加した。

これは、岡山県、兵庫県等で減少したものの、広島県、宮城県等で増加したためである。

図 11 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

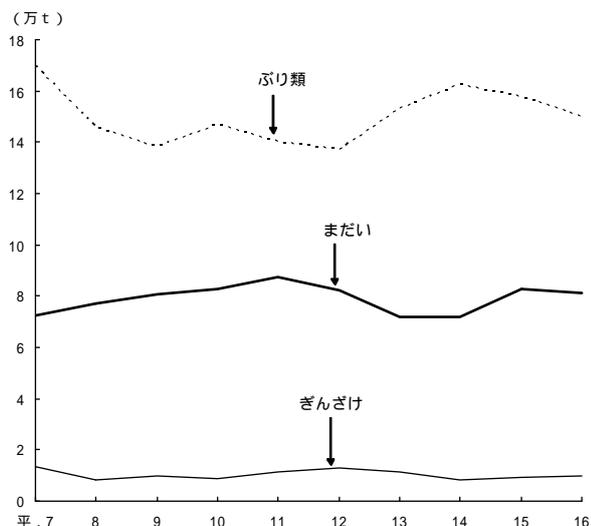
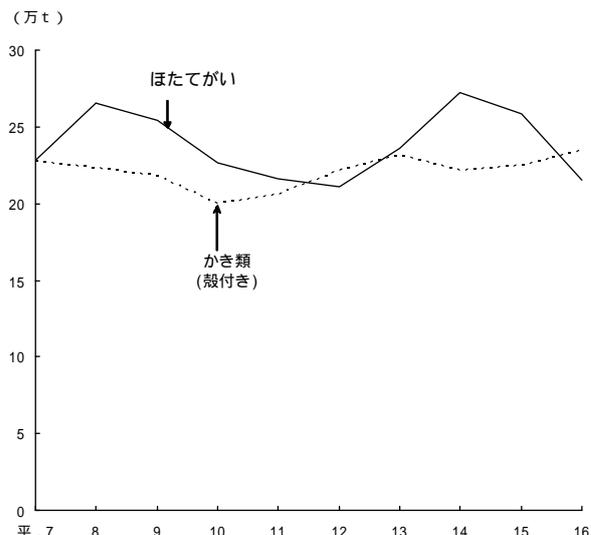


図 12 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



ウ 海藻類

収穫量は 48 万 4,389 t で、前年に比べ 6,684 t (1.4%) 増加した。

(ア) のり類（生重量）

収穫量は 35 万 8,929 t で、前年に比べ 1 万 1,575 t (3.3%) 増加した。

これは、兵庫県等で減少したものの、佐賀県、福岡県等で増加したためである。

(イ) わかめ類

収穫量は 6 万 2,236 t で、前年に比べ 2,366 t (4.0%) 増加した。

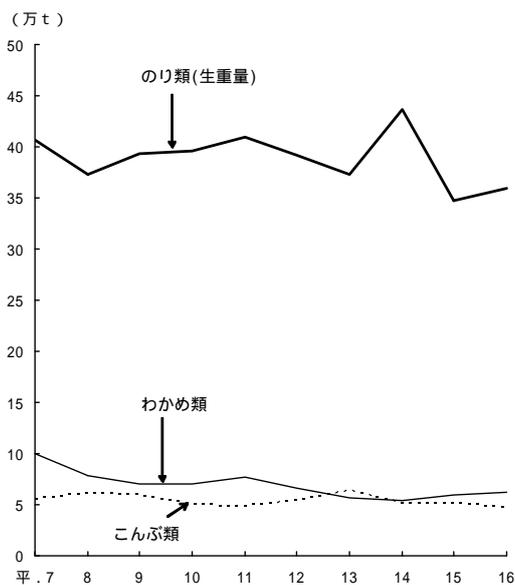
これは、徳島県で減少したものの、岩手県、宮城県等で増加したためである。

(ウ) こんぶ類

収穫量は 4 万 7,256 t で、前年に比べ 3,722 t (7.3%) 減少した。

これは、岩手県等で増加したものの、北海道等で大きく減少したためである。

図 13 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



(3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要 106 河川及び 24 湖沼）の漁獲量は 5 万 9,988 t で、前年並みであった。

ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は 3 万 7,892 t で、前年に比べ 1,903 t（5.3%）増加した。

また、湖沼における漁獲量は 2 万 2,096 t で、前年に比べ 1,867 t（7.8%）減少した。

イ 主要魚種別漁獲量

(ア) さけ類

漁獲量は 1 万 9,103 t で、前年に比べ 5,245 t（37.8%）増加した。

これは、主産県である北海道、岩手県で大きく増加したためである。

(イ) しじみ

漁獲量は 1 万 6,234 t で、前年に比べ 706 t（4.2%）減少した。

これは、台風や気象の影響等により、青森県等で減少したためである。

(ウ) あゆ

漁獲量は 7,312 t で、前年に比べ 1,108 t（13.2%）減少した。

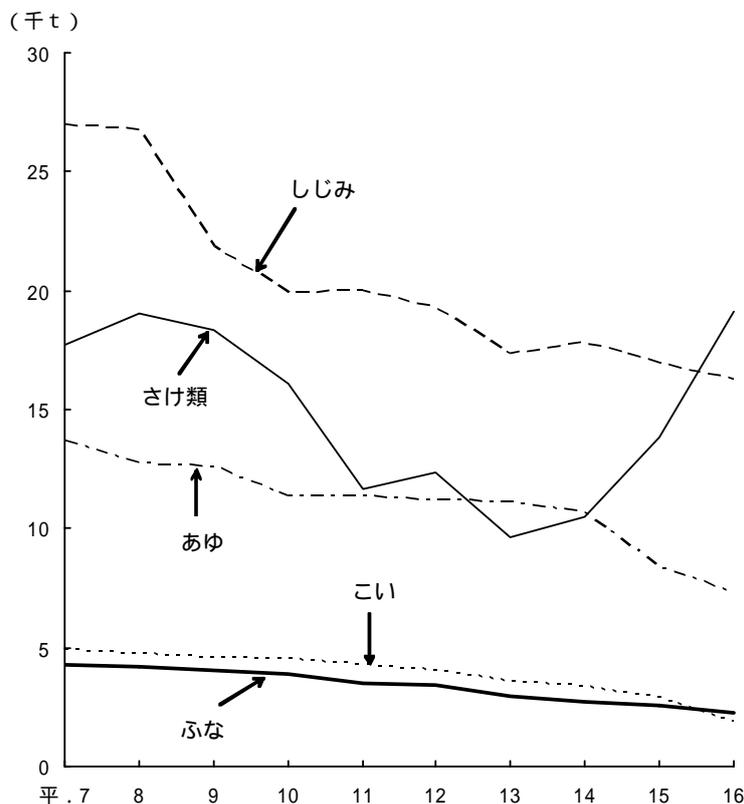
これは、台風や大雨による増水等により、高知県、徳島県等で減少したためである。

(エ) こい

漁獲量は 1,843 t で、前年に比べ 1,040 t（36.1%）減少した。

これは、コイヘルペスウイルス病等の影響により、茨城県、千葉県等で減少したためである。

図 14 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は4万5,423 tで、前年に比べ4,466 t (9.0%) 減少した。

ア うなぎ

収穫量は2万1,540 tで、ほぼ前年並みであった。

イ にじます

収穫量は8,848 tで、前年に比べ381 t (4.1%) 減少した。

ウ あゆ

収穫量は7,201 tで、前年に比べ239 t (3.4%) 増加した。

エ こい

収穫量は3,966 tで、前年に比べ4,094 t (50.8%) 減少した。

これは、前年に発生したコイヘルペスウイルス病の影響により、主産県で大きく減少したためである。

図 15 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移

